



桐生ロータリークラブ週報

2004年

国際ロータリー第2840地区 2003-2004年度 国際ロータリーのテーマ



手を貸そう Lend a Hand

R.I 会長 ジョナサン B. マジアベ

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原勝樹

会長 久保田裕一 幹事 牛腸章

クラブ会報・広報委員会 塚越紀隆・茂木巖

7月5日号

第2484回例会

第2484回・第2485回合同掲載

(6月21日(月) 第3例会)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 点 鐘 | 6. 幹事報告 |
| 2. ロータリーソング斉唱「我等の生業」 | 7. 委員会報告 |
| 3. 来訪者紹介 | 8. 卓 話 「来桐して25年」 藤井 征夫君 |
| 4. 退会あいさつ | 9. 点 鐘 |
| 5. 会長の時間 | |

小池 久雄君

ようこそビジター

〈桐生赤城RC〉 田村 浩道様



退会あいさつ

小池 久雄君

幹事報告

- 日本てんかん協会群馬県支部より「からっかぜ」が届いております。
- 桐生南、桐生中央の各RCより週報到着。
- 次週6月21日(月)の例会は最終例会です。桐生倶楽部にて午後6時30分点鐘ですでお間違えのないようお願い下さい。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成16年6月21日):総員63名・出席40名
平成16年6月7日例会修正出席率:70.59%

ロータリー財団委員会

藤江 篤会員 \$100
宮本勝正会員 仔豚の貯金箱

米山奨学委員会

藤江 篤会員 10,000円

ニコニコボックス

桐生赤城RC田村浩道様…メイクに参りました、宜敷くお願い致します。/藤井征夫君…久保田年度の最後の卓話をさせて頂きますので/前原勝君…昨日の故父 前原貞勝の一年霊祭には、多くの会員の皆様に御参加頂き、お蔭様で無事に終了致しました。/佐々木裕君…塚越さんより写真を戴きましたので/村田勝俊君…本田会員にお世話に成りました。/五十嵐健雄君・坪井良廣君・久保田裕一君・本田雄一郎君・佐藤富三君・疋田博之君・前原勝良君…写真を戴きました。/八木橋祥价君…桐生工業高等学校同窓会会長に就任致しましたので/前原勝良君…前原貞勝伯父の一年祭に多数の会員の方々の御参加を頂きありがとうございました。

会長の時間

- 6月15日(火)午後6時30分プリオパレスに於て、桐生5 R.C.の会長幹事新旧顔合わせ会が事務員をまじえて行われました。
- 6月20日(日)正午、ホテルきのこの森で故前原貞勝さんの一年霊祭が行われ、多数のロータリアンと一緒に出席しました。
- 先週に引き続き、今の婦人科の関心事について話しますと、
 - 1) 子供の欲しい人には
ホルモン療法と人工受精があります。
遺伝子治療はどんどん進化していますが、最近やっと受精卵の疾患をしらべる着床前診断の許可が下りました。
 - 2) 避妊を望む子供を作らない人には
器具、ホルモン療法、手術療法があります。
今は24週(6ヵ月)迄は中絶が出来ます。
- 最後に私が産婦人科になったわけ
イタセクスアールリス?
“雨止めば野良の子猫も親離れ” 広人

例会場 桐生倶楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM

ホームページ <http://www.Kiryu.co.jp/Kiryurc/> メール Kiryu-rc@ktv.ne.jp

卓 話



第2484回例会卓話

「来桐して25年」

藤井 征夫君

久保田年度の卓話者のトリに指名戴き光栄に存じますが、皆様の期待に沿える卓話はできそうに有りませんので、時間の消化に一計を講じました。

前原プログラム委員長は名医と聞いておりますし、当クラブには8名のドクターが居られ、63名の内の実に12.7%を占めております。そこで名医に質問を致しますので、前原委員長が答えられない場合は、順次に答弁を求めますので、よろしくお願い致します。

紀元前ギリシャで活躍した医師で、「医学の父」「医聖」とたたえられ、現在も胸像をキャンパスなどに飾る大学医学部は多いそうです。この方の「誓」は、ギリシャ神話の神々に、医師としての心構えを述べています。主な内容は「患者に利益すると思う養生法をとり、有害と知る方を決してとらない」、「死に導くような薬を与えない」、「女と男、自由人と奴隷の違いを考慮(差別)しない」……そして「誓いを守り続ける限り、私はすべての人から尊敬されるだろう。もし誓いを破るならば、その反対の運命を賜りたい」と続いています。これは不変の「医の倫理」と言えるのではないのでしょうか。さて、この医師は誰でしょう。「ヒポクラテス」です。

さて本題に入ります。私は地下に埋まっているガス管・水道管・電力・電々や文化財等を、電磁波・レーザー・音波を使って探索し、それを図式化すると共に、ガス・水道管の漏れの有無を種々な検知器で調査をする事業を、桐生瓦斯株式会社 塚越平人社長(当時)様にご訓導戴き、昭和54年来桐し、1980年昭和55年7月7日起業をし今日に到っております。そして平成10年3月9日、当クラブの45周年の記念すべき日に、塚越平人会員の推薦で入会を致し、6年3ヶ月が経過しました。

先日、来桐してからお世話になっている方にお逢いしましたら、その方は父親が当クラブの会長をなさり、本人も会員だったそうですが、「藤井さん桐生に来て何年になったの」、「25年です」、「藤井さんもやっと桐生人になったよなあ」と言われ感無量でありました。

私が群馬・桐生に関心を深めるため見聞した事を話しましょう。ドキュメント作家として活躍した桑原稲敏(イェトシ)さんの「往生際の達人」の中で、作家の島崎藤村は、重態で床に伏している田山花袋の枕元に行って訊いたそうです。「君、死ぬってどんな気がする?」。昭和58年亡くなった羽仁五郎さんは、ご案内のように「明治維新」や「ミケランジェロ」の著作で反響を呼び、反ファシズム発言で治安維持法により2度逮捕され、昭和43年の「都市の論理」がベストセラーになりましたが、羽仁五郎は死の一週間前、説子夫人に唇を突き出して「若いときみたいにしてくれ」と接吻をねだったそうです。「おれの人生は終わったから、無理な治療はするな」。後日談があります。

羽仁五郎の秘書をしていた赤城村出身の須田隆昭さんと偶然桐生ガスでお逢いし交際をするようになりましたが、この方は勿論左翼、私はどちらかという右翼、人生は更に解らなくなったのは、彼から山本五十六元師の自筆のコピーを戴いた事ですが、これは羽仁五郎が持っていたコピーをコピーしたのだそうです。ここに持って参りましたので朗読しま

す……。

山本元師が広島県の呉軍港にいた連合艦隊司令長官、当時56才だったそうですが、昭和17年5月26日付にて、元東京新橋の芸者で、銀座の芸者置き屋の女将の河合千代子さん、38才に発信した歌「うつし絵に口づけしつ幾たびか、千代子とよびて、けふも暮しつ」。昭和初期に知り合った2人の関係は10数年続いたそうで、戦後里見淳が短編「いろおとこ」に仕立たそうですが、五十六の名はあらわにされなかったそうです。昭和18年司令長官機が撃墜された直後、千代子さんは海軍省から自決を迫られ、拒むと山本の手紙約60通を没収されたが、数通だけは隠し持ち、そのうち2通が沼津市の病院長にわたったそうで、この「うつし絵」の歌は、その内にあったそうです。歴史に名を残すような人も、手紙の内では、意外な素顔を見せるものであり、そこには初めて明かされる真実の数々があると、日本エッセイストクラブ理事長の村尾清一さんの著「日本人の手紙」に書かれていました。昭和18年4月18日ブーゲンビル島の上空で散華した山本の、4月2日付の千代子に宛てた最後の手紙には、辞世と遺髪が同封されていたそうです。「大風に吾し思いかくばかり、妹が夢のみ夜毎に見むや」。

話を元に戻します。昭和58年80才で逝った片岡千恵蔵、「国士無双」「多羅尾伴内」シリーズ、「いれずみ判官」「血槍富士」「大菩薩峠」想い出しますでしょう。俳優田山力哉さんは著「千恵蔵一代」の中で、晩年の千恵蔵は、ずっと「火宅の人」だった。(坂口安吾、太宰治、檀一雄の作家を称して、無頼派と呼ぶのですが、女優 檀ふみの父の一雄は、家族を見捨てて新劇女優との愛執に生きる姿を「火宅の人」で描いた)。亡くなるまでの約20年間名古屋に住む愛人のもとで過したそうで、「死の三週間ばかり前、千恵蔵は病室のベットに正座し、手を合わせてお経を読んでいた。頬はこけ、真っ白になった頭髪は総毛立ち、入れ歯を外した顎はガクガクしていた。その凄絶な姿は、彼が繰り返し演じてきた宮本武蔵の生き写しのように映った。死を眼前にし、悟りに達しないまま晩年を終えようとする武蔵の無念の形相が、彼にのり移っているかのようだった、と俳優の田山は書いております。葬儀に愛人は参列できず、分骨の望みも叶えられなかったそうです。

無頼派の坂口安吾の名前が出ましたので。坂口は大層な酒飲みの事はご案内の通りですが、終戦直後、坂口、太宰治、織田作之助の3人の無頼派の作家がラジオに引っぱり出されて出たそうですが、やたらに飲んで、ぐでんぐでんに酔っぱらって、とにかく番組にならなかったそうです。この場合飲みすぎたのは、酒が好きというよりはラジオ出演に緊張し、お互いに照れ性だったからで、作家の場合は、自意識過剰で飲んだんでしょと、武蔵野女子大学学長をやった食と文化に造詣が深い、大河内昭爾さんが書いております。

ご存じのように私も大酒飲みです。酒飲みの境地を、吉田茂宰相の子吉田健一は「響宴」というエッセイのなかで、「犬が寒風を除けて日向ぼっこしているのを見ると、酒を飲んでいる時の境地というものについて考えさせられる」と書いてます。まことに言い得て妙といった感じがします。ご案内のように吉田宰相の並通りでない うっ屈(くしゃくしゃした気分の晴らし場所を求めていらいらすること)して、なお飄々たる独得の風貌を思い出すせいかも知れませんが、この短い文章には酒飲みの「しあわせ」というものがあふれているように思えます。

ついでにもう少し酒の話を、よく「俺の酒が飲めないか」といいますが、これは軍隊から出たそうです。宝酒造の生活文化研究所の玉村所長は、「酒は内側

からのお風呂である」と言っています。外側からではなく内側から温まる。体だけでなく心も温める。という意味からそうです。「雁の寺」で直木賞を受賞し、「飢餓海峡」「金閣炎上」「一休」「良寛」などの作家水上勉は9歳で弾寺に入り、11歳で得度されたそうですが、言わく、禅宗とくに曹洞宗には、寺に入る時に「葷酒山門に入るを許さず」（葷酒とは臭気のある野菜と酒）というのがあるのだが、禅宗には月に一度、お酒を飲んでいい日があったそうです。その日は酒だけでなく女性も買いにいけるという「どやし」という日があるそうです。又僧堂には座禅を組んで、朝から晩まで問題をもらって、老師の前でかしこまっている「接心」という修行が年1回あるそうですが、これが明けますと1ヶ月位、京都の祇園や先斗町は賑やかだったそうです。後程坪井会員に確かめてみたいと思っています。

話を往生際に戻しましょう。私事です平成6年に胃がんを患い、手術後院長より「藤井さん3年位かなあ」と宣告されましたが、この8月で10年になります。悪い奴ほど長生きするのでしょうか。私の好きな哲学者梅原猛の書き物に、「70過ぎたら、あの世に別宅を」最近よくこの言葉を書く、72歳の時に2度目のがんを患い、発見が早かったために手術をして運よく一命をとりとめた後に、思わず口から出た言葉であろう。「70を超えたら自分の住居を、この世からだんだんとあの世に移していくべきだと思っているのである。徐々にあの世に自分の住居を移せば、自然に抵抗なくあの世に行けるというわけである。またあの世に住居を移せば、この世のことがはっきりみえるとともに、かえってこの世が楽しく生きられるようになる。この世に対する執着も失せて、1日1日が楽しく送れるのである」と書いてます。

また、京都仏教会理事長の有馬頼底師は、日経の「私の履歴書」のなかで、人生いろいろ、人それぞれだ。しかし確実なことは二つしかない。生まれてやがて死ぬ。この二つだ。「生死事大」という。金があっても不老長寿の望みは叶わない。死は怖い。それは死にたくないからだ。ではどうしたらいいのか。どうしても逃られないものなら、いっそ死を己のものにしたらどうか。と。さらに、短い言葉では、一休

禅師の「門松は冥土の旅の一里塚」が身近かに感じられるようになりますし。ローマ時代の哲学者セネカの著「人生の短かさについて他二篇」に「生涯をかけて学ぶべきは死ぬことである」と。経済学者のケインズも「生きるために働く必要がなくなった時、人は人生の目的を真剣に考えなければならなくなる」といっています。

哲学者、仏者の含蓄ある言葉を述べましたが、私のような偶人は、こうはいきません。折角伸ばされた命ですから、桐生ロータリークラブの素晴らしい先輩の教えを受けて、生き続けたいと念じております。また、ボケないためにも「三かく」即ち汗をかく、ものを書く、恥をかく（年がいてもなく新しいことに挑戦する）が一番でしょう。

年寄りじみた話が続きましてので話題を変えてみます。私は本年の4月の始めに奈良の橿原神宮の春季大祭に妻と参列してきましたが、どこにいても吉野の「柿の葉すし」が売られておりました。吉野といえば「鮎」「葛」「柿の葉すし」ですが、わけても鯖すしをつつんだ季節限定の「柿の葉」は逸品であります。だれしも「ここだけ」の逸品を持っているでしょう。

三菱電機エンジニアリングが「ここだけ」のアンケートを行った。全国の男女2,634人を対象にしたインターネット応募による自由記入方式。逸品の名、都道府県、推薦理由、を聞いた。1位はなんと群馬県の「焼きまんじゅう」。昔から地元では親しまれてきたが、他にはあまり知られていない。私の桐生出身の妻は、これが大好き、市外に出ても、どこがお好しいか必ず食する。遂にいき当ったのが、桐生でなくて残念ですが、太田の大光院入口にあります「こうじや」の焼きまんじゅう、真に美味であります。2位は滋賀県の「鮎寿司」と香川県の「讃岐うどん」、4位は茨城の「納豆」、5位は北海道の「白い恋人」、次いで千葉の「落花生」、愛知の「味噌煮込みうどん」、福岡「辛子明太子」、大阪の「たこ焼き」が続いたそうです。

丁度時間となりました、とりとめのない卓話にお付き合い、ご静聴賜わり感謝申し上げます。ありがとうございました。

第2485回例会

(6月28日(月) 第4例会～最終例会～)

午後6時30分 点鐘
於 桐生倶楽部広間

1. 点 鐘
2. ロータリーソング斉唱「奉仕の理想」
3. 来訪者紹介
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 委員会報告

7. 卓 話 「一年を振り返って」

- 会 長 久保田 裕一 君
幹 事 牛 腸 章 君
会長エレクト 前 原 正一 君
8. 乾 杯
 9. 会食歓談
 10. 点 鐘

会長の時間

- いよいよ今年度最終例会となりました。感無量です。
- 阿部高久会員の御母堂しづ様の葬儀告別式が6月24日(木)に桐生広域斎場にて行われ、多数の会員が出席しました。
 - 6月24日夜、友奴にて次年度クラブ奉仕関連委員会の家庭集會が行われました。
 - 6月25日桐生倶楽部1号室にて、桐生R.A.C.の最終例会があり出席して参りました。
 - 残念な事ですが、過日の小池会員の退会に続き、宮本勝正会員の退会届に対し理事会で認め、退会という事になりました。今後の御健勝を祈ります。“最終の鐘をひびかせ梅雨明け” 広 人

幹事報告

- RID2840 2003-2004 ガバナー森田 均様ならびに群馬第2分区A G金井栄則様より今年度一年間の感謝を込めて電報が届いております。
- 新田RCより 2003-2004年度 RID2840・2560 合同新世代奉仕プログラム「インターアクト国際交流事業」の報告書が届いております。
- 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城の各RCより週報到着。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成16年6月28日):総員63名・出席48名
平成16年6月14日例会修正出席率:70.59%

卓 話



第2485回例会卓話

「一年を振り返って」

2003-2004年度
桐生 R C 会長
久保田 裕一 君

いよいよ本日最終例会となりました。私にとりまして此の1年は非常に早く過ぎた感じです。去年の7月7日の第1例会で鐘を打ったのは思えばつい昨日の様に思われます。以来殆どすべての行事はスケジュール通りに行われまして、何と言いましょか完全に仕組まれたレールの上を走った様な感じでした。そして、大過なく過ごせた事は何と言っても優秀な幹事さんに支えられたものと痛感します。又強力な理事役員の方々と熟練した事務員さん、又先輩諸兄の方々の御支援と、私の基本方針である和気藹々の精神に同調して頂いた会員の皆様方の御協力の賜と唯々感謝するのみです。幸にも途中で倒れる様な事もなく、無事1年を乗り切って参りました。誠に有難く思っています。

行事を振り返って見ますと、毎月の定例理事会、結婚誕生祝、出席100%表彰、2ヵ月に1回位のクラブ協議会。大きい行事では、8月18日のガバナー公式訪問、9月8日の第2分区分のI.M.大会、10月20日の地区大会がありました。又インターアクト訪問や交流会があり、本年4月4日にはローターアクト創立35周年大会もありました。又一方楽しい行事としては、時に委員会別の家庭集会があり、桐生5 R.C.の会長・幹事会合も為になりました。家族会と合同で8月25日の納涼会、12月15日のクリスマス会があり、本年5月19日の歌舞伎見物は楽しいものでした。又5月16日雨の中を群馬森林公園へ植樹に行った事、5月17日の職場訪問で大間々ののぞみの苑を訪問した事等々、数えればきりがありません。

思えばロータリーとは何であったか、会長を退くにあたり考えて見ますと、バーナードショーが言った様に“ロータリー何処へ昼食へ”、正にこの通りであると思います。それは何しろ出席する事が第1なのです。そして、そこに何をを見つけるかは個人それぞれの考えであり能力であると思います。100年続いている世界的大組織の中で何か変化を求めるのではなく何かを見つける事が出来るかが大事な事ではないかと思えます。R.Iは世界のロータリー組織でありまして、国単位のロータリーではありません。此の組織の中に居ると言う事は世界中の人類にとって或種の優越感と気負いを持った人達なのです。そしてそれらの人達の仲間意識と協栄と安住の意識をもった人達の団体であると思えます。

ロータリーは永遠であると思えますし、そうなるべきであると思えます。

最後になりますが、桐生ロータリーの益々の発展と皆様の御健勝を願ひまして会長としての最後の挨拶と致します。

皆様本当に有難うございました。



「一年を振り返って」

2003-2004年度
桐生 R C 幹事
牛 腸 章 君

皆さん今晚は、ようやく本日最終例会を迎える事が出来ました。この例会で私の幹事としての役目は終わります。大変残念な事で有り寂しいものです。折角その仕事にも慣れ会員の皆様にも認められて(?)きたと思つたら今月でその任を解かれます。まだまだ久保田会長と楽しい例会を続けたかったのですが時間切れとなりましたので前原年度に期待する事に致します。

一年を振り返ってとの事ですが、通常幹事を受けた一年は見習い期間がありますが、私の時は前年度が桐生 R.C.の記念すべき50周年であり全会員が一丸となって燃えていた年でした。私も総務式典部会長を任命され連日の様に館運営幹事や実行委員会のメンバーと内容確認や資料作りに時間を費やす日々でした。3月7～8日の記念事業も無事終了しホッとする間も無く3月22～23日が会長エレクト、次期幹事研修セミナーが伊香保で二日間有りやっとならぬ所此処で会長の基本方針をお聞きし自分自身幹事としての自覚がようやく出来た気がします。今年度の例会数は7月7日の初例会から本日の最終例会まで43回有りました。その例会の中には8月18日のお盆の休み明けに公式訪問が有り、協議会に委員長の欠席が無いが心配した事や第二分区分のI.M.、地区大会等、会員さんに対して出席のお願い、堀社会奉仕委員長担当の山奥での雨の中の記念植樹、最近では家族会の歌座での観劇に感激した事等々本当に一年間充実した年であり貴重な体験を数多くさせて頂きました。これも各例会や事業に対して各委員長さんを始め委員会メンバーの絶大の協力が有ればこそで、限りある予算の中で計画を実行され、ご苦労された委員長さんに感謝申し上げます。また私が難問に遭遇した時に適切にアドバイス頂いた吉野 P.G.を始めとする先輩諸氏、理事役員の方々の皆様、月曜の朝、例会に間に合う様点滴の時間を早くして下さいました、前原プログラム委員長、私との昼食は何時もカレーうどんで我慢してくれた秘書役の茂木さん等、多くの人に助けられ43回の例会を休む事無く無事勤めさせて頂いた私は本当に幸せ者です。幹事役に感謝して御礼の挨拶とさせて頂きます。

乾杯/前原正一会長エレクト

会 食 歓 談



会 食 歓 談

